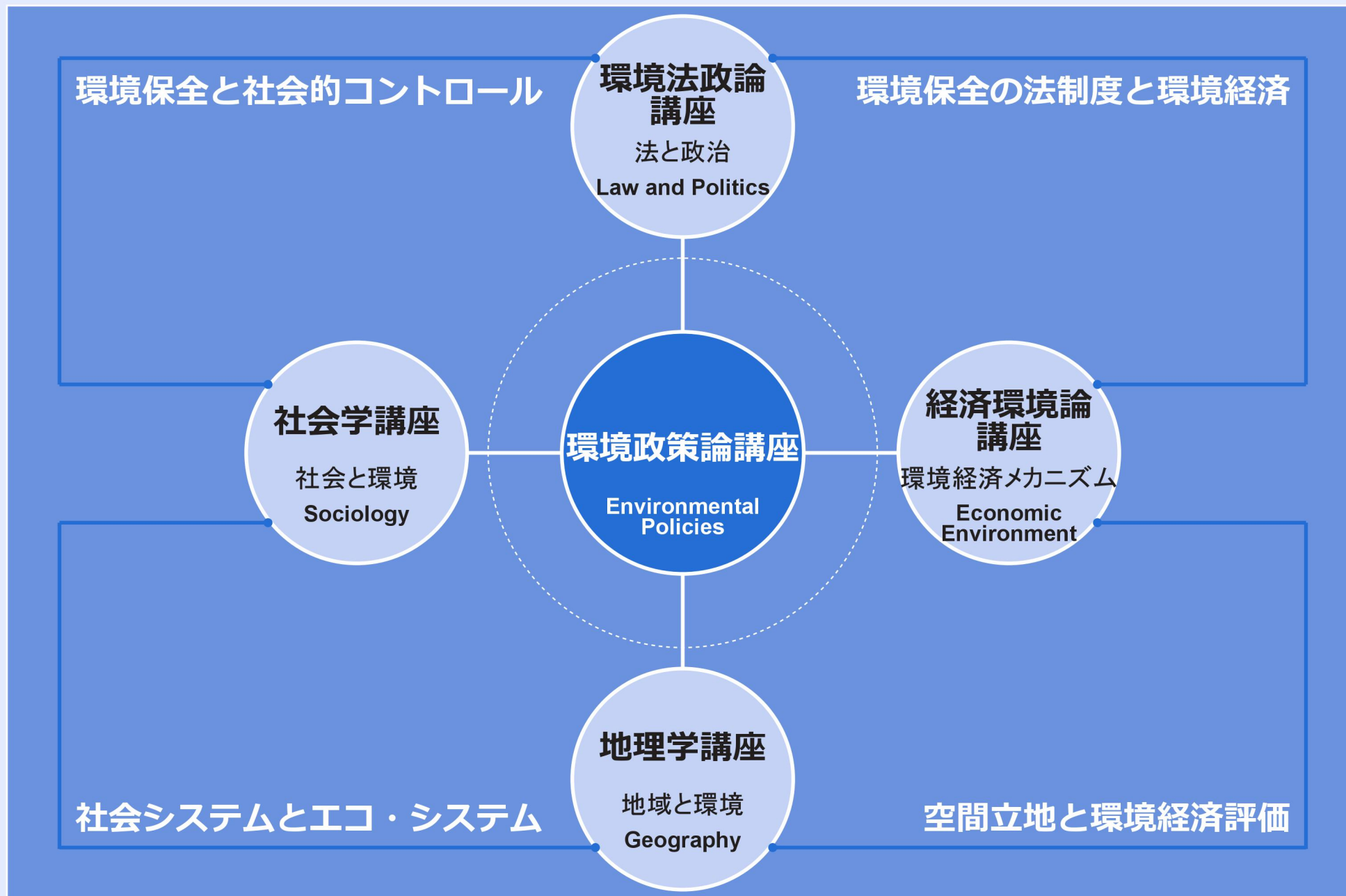


# 社会環境学専攻



*Department of Social and Human Environment*



## 【専門分野】食と農の社会学、科学技術社会論

### フードシステム／科学技術のガバナンス

#### 【研究紹介】

現代における様々な変化を、食と農という側面から社会的に研究しています。環境負荷や地域づくり、文化変容、格差など、食と農を通じて検討することで、身近な問題として捉え直すことができます。

また、遺伝子組換え作物やナノテクなど、食と農への先端技術の応用がフードシステムに影響をもたらしている現代において、科学技術に対するガバナンスのあり方が重要になっています。社会学の観点から問題構造の把握を行い、ガバナンスのあり方について社会に発信できればと考えています。



英国のfarmers' market (2014)



米国のバイオ企業調査(2013)

#### 【著書・論文】

- ・「選択する消費者、行動する市民: 食から社会を変える」、秋津他編『農と食の新しい倫理』所収, 昭和堂, 2018.
- ・「ゲノム編集由来製品のガバナンスをめぐる消費者の認識」、『フードシステム研究』24(3): 251-256, 2017. (共著)
- ・『遺伝子組換え作物をめぐる「共存」—EUにおける政策と言説』農林統計出版, 2017年
- ・「北米におけるフードポリシー・カウンシルの展開とその含意」、『フードシステム研究』23(3): 299-304, 2016. (共著)
- ・『食と農の社会学』ミネルヴァ書房, 2014年. (共編著)
- ・『萌芽的科学技術と市民—フードナノテクからの問い』日本経済評論社, 2013. (共編著)
- ・『遺伝子組換え作物と穀物フードシステムの新展開—農業・食料社会的アプローチ』農文協, 2003.





# 【専門分野】 環境社会学／科学技術社会論

再生可能エネルギーの社会的受容性／環境保全と地域再生  
／野生動物と地域社会／持続可能な社会と科学の不確実性

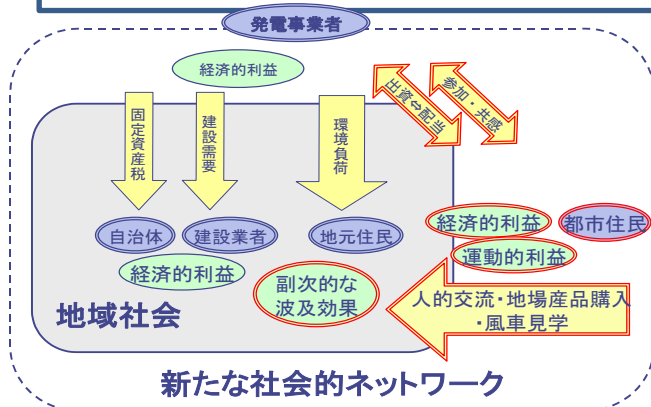
## 【研究内容】

- ・**持続可能な社会と社会的公正**: 持続可能性と世代間／世代内の利害対立、全体最適のための誘導的選択肢
- ・**再生可能エネルギーと地域社会**: 立地地域におけるリスクと便益の分析、自然共生型再エネの可能性、合意形成の手法やビジネスモデルの開発
- ・**合意形成と市民参加**: 環境コミュニティービジネス、再生可能エネルギーの適地抽出と市民参加調査、日本自然保護協会「ふれあい調査」
- ・**環境配慮のジレンマ**: 獣害、環境保全型農業、自然再生

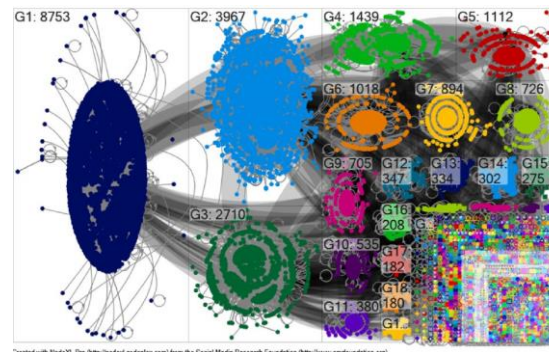
## 【著書】

- ・〈よい再エネ〉を拡大する 法政大学出版局
- ・「シリーズ環境社会学 第二巻・第六巻」新泉社(分担)
- ・どうすればエネルギー転換はうまくいくのか 新泉社
- ・どうすれば環境保全はうまくいくのか 新泉社(分担)
- ・なぜ環境保全はうまくいかないのか 新泉社(分担)
- ・再生可能エネルギーのリスクとガバナンス ミネルヴァ書房
- ・再生可能エネルギーの社会化 有斐閣
- ・環境の社会学 有斐閣
- ・サルと人間の環境問題 昭和堂

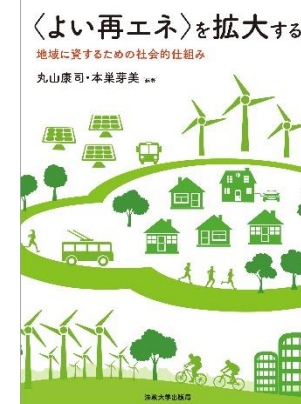
ほか



市民出資型エネルギー事業の波及効果



SNSにおける反再エネ言説の拡散過程





## 【専門分野】理論社会学、現代社会論

現代社会論／社会システム論／コミュニティ論

### 【研究内容】

1. 理論的には、ポストフォーディズム、ポスト工業社会、リスク社会、リキッド社会などさまざまに呼ばれる現代社会の構造変動を分析している。社会システムとしての市場・政府・コミュニティの相互関係と、リスク化・個人化する社会でのコミュニティのあり方を問題にしている。
2. 実証的には、グローバル化とポスト工業化のもとで格差拡大や社会的孤立が問題になるなかで、名古屋都市圏を中心に、地域コミュニティにおける社会関係資本の格差が人々のウェルビーイング(健康・幸せ)に及ぼしている影響を分析している。

### 【著書・論文等】

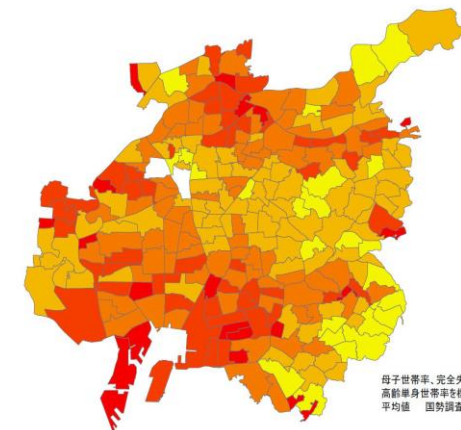
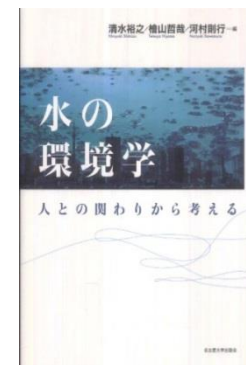
- ・グローバルゼーションと情報・コミュニケーション、河村則行・黒田由彦他、文化書房博文社、2002年
- ・組織と情報の社会学(共著)、津村修・加藤清明・河村則行他、文化書房博文社 2007年
- ・ポスト工業社会と不確実性ー「生産の世界」論からの考察ー、河村則行、社会学論集30号、2010年
- ・「名古屋」の都市空間の再編とコミュニティ形成 東海社会学会年報8号、2016年
- ・集合的効力感とウェルビーイングー名古屋市名南学区の協同のまちづくりを事例にー、河村則行、社会学論集44号、2024年  
ほか



名古屋の市街地



東白川村の茶畑





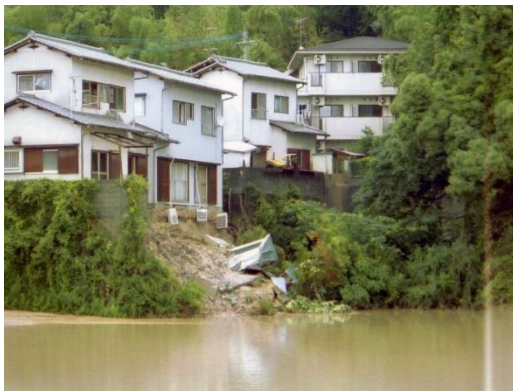
## 【専門分野】地域社会学、災害社会学 開発と災害／防災とコミュニティ／環境変動適応

### 【研究紹介】

地域社会学、都市社会学が専門で、東日本大震災後はもっぱら自然災害に関する調査に従事しています。発展途上国の災害との比較も視野に入れ、災害と開発の関係や社会と自然の関係、防災に果たすコミュニティの役割について研究しています。最近では気候変動への適応という社会課題について、社会学の立場からどうアプローチできるか模索中です。

### 【著書・論文等】

- ・都市化と災害, 大学教育出版, 2011年.
- ・発展途上国における開発と災害—スマトラ地震とアチェの事例, 地域社会学学会年報, 30巻, 97-110, 2018年.
- ・アーバンフリンジの震災復興と社会変動, 日本都市社会学学会年報40, 59-75, 2022年.
- ・Literacy for Disaster Resilience from “Downstream”, *JDR*, Vol.19 No.1, 113-123, 2024年.
- ・震災復興と開発—リスク配分の不均衡と環境変動, 東信堂, 2026年.



福岡県太宰府(2003年北部九州集中豪雨)



アチェ(インドネシア)の堤防



南三陸町の河川堤防



# 【専門分野】ジェンダーの社会学・女性労働論

## 家事・ケア労働、質的調査研究、市民運動・社会運動

### 【研究紹介】

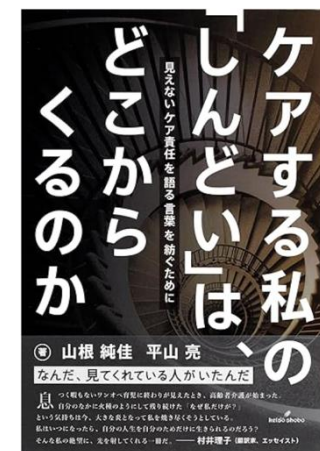
家事・ケア労働をテーマに、家庭内の性別分業や労働市場での性別職域分離(男性と女性の職業が分離していること)がもたらす、生活や労働における機会や資源の配分について研究しています。家庭や労働市場における「ケア」という労働の特徴から「合理性」「親密性」「利他性」という概念の理論的意味についての分析や、介護保険制度下の介護労働者の労働条件、福祉の市場化がもたらす高齢者や地方の生活への影響、ケア労働者のグローバルな市民社会の運動の連携について等、実証研究もしています。

### 【著書・論文等】

『産む産まないは女の権利かーフェミニズムとリベラリズム』(山根純佳, 2004, 勁草書房)。  
『なぜ女性はケア労働をするのかー性別分業の再生産を超えて』(山根純佳, 2010, 勁草書房)。  
『岩波講座社会学 ジェンダー・セクシュアリティ』(山根純佳・丸山里美 岩波書店)  
『ケアする私のくしんどい』はどこからくるのか』(山根純佳・平山亮 2025 勁草書房)  
「準市場における反転した選択 訪問介護事業所のクリームスキミング行動の分析」(山根純佳2025『福祉社会学研究』22号) ほか



家事・ケア労働をめぐる国際シンポジウム





# 【専門分野】福祉社会学、比較社会政策論 東アジアの福祉レジーム／仕事と福祉の歴史と未来

## 【専門分野】

福祉社会学は、たんに福祉制度の細かいことを詳しく研究する学問ではなくて、私たちの暮らしがいかによりよい福祉政策によって条件づけられているかを明らかにする学問です。

私たちの暮らしが国家と社会の相互作用のなかで成り立っていること、現状が唯一の可能なあり方でないことは、他の国のデータと比較することで見えてきます(比較社会学)。

その際、メカニズムがどうなっているかの分析とともに、ではこれからどうすべきか、どう変えていくべきか、あるいは変えるべきではないのかを考えます(政策社会学)。

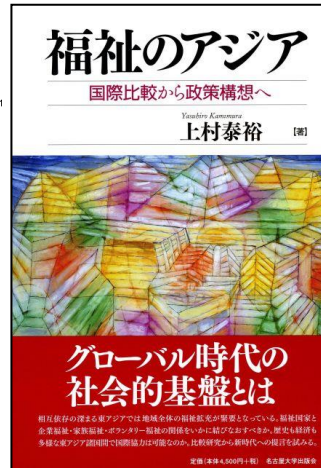
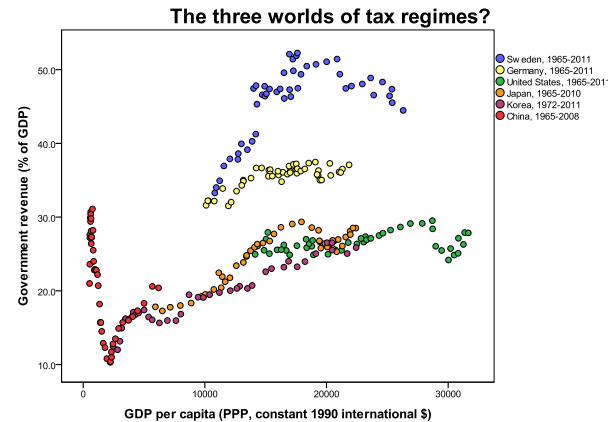
## 【研究テーマ】

東アジアの福祉レジームの政治経済学、台湾の福祉国家形成、仕事と福祉の歴史と未来、新旧のインフォーマル雇用、環境保護と社会正義、グローバル社会政策。

## 【著書】

『福祉のアジア——国際比較から政策構想へ』

(名古屋大学出版会, 2015) 第28回アジア・太平洋賞特別賞受賞



ハーバード・イェンチン研究所ワークショップ



東アジア社会政策会議  
名古屋大学豊田講堂



## 【専門分野】経済社会学、社会階層論

経済と社会の相互作用／労働市場と格差・不平等

### 【研究紹介】

日本的雇用システムや労働市場制度、労働政策といった「働くこと」に関わるしくみや、そのしくみのもとで生じる格差・不平等、経済と社会の多様な相互作用について研究しています。現在は、労働者間の賃金格差の問題、社会的企業の国際比較研究などに取り組んでいます。

企業中心社会に代わる雇用関係の構想や、働き方による格差が小さく、再チャレンジしやすい労働市場のデザインに貢献する〈知〉を、実証的な研究者の立場から生み出したいと考えています。

### 【著書・論文】

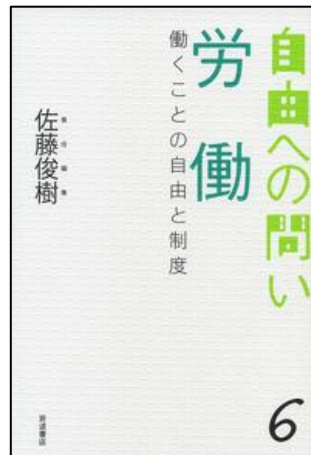
『社会的企業の日韓比較—政策・ネットワーク・キャリア形成』明石書店, 2024年.

『歴史のなかの大卒労働市場—就職・採用の経済社会学』勁草書房, 2016年.

「若年労働の変容と現在」『日本労働研究雑誌』No.767: 1-15, 2024年.

「入職経路の個人内効果—非正規雇用から正規雇用への転職のパネルデータ分析」『ソシオロジ』61(3): 23-39, 2017年.

ほか





## 【専門分野】環境社会学、地域社会学、 文化遺産の社会学

### 【研究紹介】

ローカルな景観や生業の側面から、社会・文化・自然の相互作用を通して地域社会やそこでの生活がいかに存立・変容しうるかを研究しています。

現在は国内外の小規模漁業などを調査対象にして、グローバル／ナショナルな自然環境、文化的価値、制度政策の変動下での、ローカルな社会構造・社会関係、生業・生活実践の再編のありようを実証的に研究し、社会の持続可能性を考えるための理論的寄与を目指しています。

### 【著書・論文】

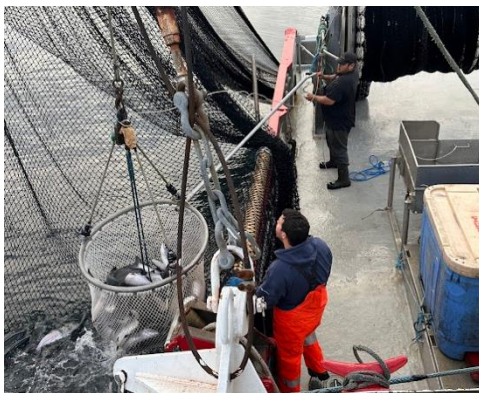
『文化遺産(ヘリテージ)との関わり方がつくる未来 —保存／活用の二元論の先に』, 2026年(共著)

「生業の継承における遺産化の影響—鳥羽市相差町の海女漁の事例から—」, 東海社会学会年報(13), 118-132, 2021年

『社会学で読み解く文化遺産 —新しい研究の視点とフィールド』, 新曜社, 2020年(共著)

「生業の遺産化と「振興」をめぐる力学 —三重県鳥羽市における海女漁の事例から—」, 環境社会学研究(25), 186-201, 2019年

ほか



カナダ北西海岸先住民のサケ漁



三重県鳥羽市の海女漁



海女とのインタビュー調査



【専門分野】 国際社会学、エスニシティ論、地域社会学

【研究紹介】

外国人住民の生活と関係の形成に着目し、地域におけるつながりと共生のあり方を研究しています。とりわけ、異なる背景をもつ移民第2世代の子どもたちが、日本においてどのようにキャリアを形成していくのかに注目し、その過程において地域社会の構造が与える影響を明らかにしています。

主なフィールドは豊田市保見団地などの工業都市であり、エスニック・コミュニティの変容と世代交代が地位達成に与える影響を実証的に分析しています。今後は韓国を含めた他地域との比較研究にも取り組みたいと考えています。

【著書・論文】

「第二世代の文化変容とキャリア形成」, 移民政策研究(17), 110-128, 2025年

「ブラジル人集住地コミュニティの変容とまちづくり」地域社会学会年報(37),109-123, 2025年

「集合的な文化資本としてのコミュニティの力」名古屋大学社会学論集(42), 28-53, 2021年

ほか



ブラジル人集住地域保見団地



保見団地のまちづくりイベントと日本語教室での参与観察

